

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立楊梅幼稚園)

1 平成27年度 重点評価項目

1、夢中になって遊びこむ子ども

2、感性豊かな子ども

3、基本的生活習慣の確立・たくましく生きるための体づくり

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価		学校関係者評価	
						評価日	平成27年10月19日	評価日	平成27年10月21日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校評議員による改善 に向けた支援策
1	保育	夢中になって遊びこむ子どもの育成 コミュニケーション力の育成	1人1人の遊びの充実を目指した環境構成の充実・子どものひとり・遊び話したくなる、聴きたくなる関係づくりの構築	一人一人の遊びの姿の姿容日々の記録 自分から遊びを見つけて遊んでいますか。 自分の思いを言葉で伝えたい思いが育ってきている。人の話を聞く態度が育ってきている。	⇒	一人一人の遊びの充実や保育環境については、園内研修の充実面を改善していきたい。 ・異年齢交流、校種間連携、家庭との連携面については昨年度の取組を見直しねらいを明確にし新たにに取り組んでいることもあり高い評価結果がみられた。また、保護者と担任の日々のコミュニケーションが信頼へとつながっている。	一人一人の遊びの姿を丁寧に多面的にみとり夢中になって遊びこめる環境・援助について、さらに保育環境・園内研修の充実に向け取り組んでいきたい。同時に研修時間の確保に努める。 ・連携面については継続して取り組んでいく。	・保育を参観して、教師が子ども一人一人の言葉に耳を傾け、子どもの気持ちに寄り添って保育していることを感じた。	・子どもにとってよいと思う教育活動を自信を持って進めてほしい。
2	豊かな心	豊かな体験活動から豊かな感性の育成 規範意識の育成	自然環境・自然体験の充実・園外保育 小動物とのふれあい・伝統文化にふれる 日々の生活や遊びの中での指導 素地指導	飼育栽培活動を通して自然とのかわりに興味をもっている。 「そう思う」保護者割合100% 家庭や公共の場での決まりやルールを折りにふれて話し合っている「そう思う」保護者割合94%集団生活の決まりを守ろうとしている「そう思う」保護者割合91%	⇒	園の自然環境充実については、取り組んでいるがまだまだやりたいができていないことが多い。 ・子どもたちは、小動物とかかわりや栽培活動に興味をもち環境にかかわっている。 ・個々の思いに寄り添い丁寧にかかわっている。	・具体的に計画し教職員の協力体制のもと実践につなげる。 ・子どもたちにとって必要な経験・体験を見直す。	・子どもたちは、教師の言葉のかけ方で変わる。	・子どもに真剣向き合えば子どもは理解してくれる。子どもと真剣に向き合っていきたい。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 進んで体を動かして遊ぼうとする子どもの育成	家庭との連携 保護者への啓発 個に応じた丁寧な指導、援助 小学校の中にある広い立地環境の活用 計画的な保育・園外保育の充実	規則正しく生活し、自分のことは自分でできるようになっている。いろいろな食べ物に興味をもったり食べてみようと思えるように工夫している。 体を動かして遊ぶことを楽しみ、幼稚園生活を通して体力がついてきている。	⇒	・基本的生活習慣の確立については、家庭による保護者意識の違いが見られる。 ・体を動かして遊ぶことを意識して計画的に保育に取り入れている。特に年長児の保護者は幼稚園生活を通して体力がついてきてると保護者の実感につながっている。	・家庭により意識の違いが見られる。家庭と幼稚園が連携して一緒に進めていくようにする。 ・引き続き保育計画に位置付け取り組みでいく。	・家庭の意識の違いが見られる。	・保護者の様々な考え方があの中で、保護者への啓発に取り組んでいくことが必要。
4	独自の取組	幼小連携の充実 子育て支援の推進 情報発信の充実 親子読書	計画的・継続的な幼小連携の取組 教師間連携の充実 預かり保育の充実・教育相談の内容充実・園庭開放の充実・情報発信 降園前の伝達・園の便り・ホームページ・楊梅だより・懇談会・面談など 100冊読書の親子取組、読書ノートの活用	教師間の交流前後の研修・子どもの具体的な姿から互いの学びあい 預かり保育・教育相談・園庭開放参加人数 ホームページやお便り、降園前の話などから幼稚園の遊びや生活の様子がわかりますか。 親子で絵本を楽しんでいる。読書ノートの活用状況	⇒	・幼小連携については、子どもの姿をもとに交流前後の話し合いにより教職員間で学びあうことができた。 ・預かり保育については、午前保育後の利用が増えた。教育相談については、0、1歳児の登録が増えてきている。 ・情報発信については昨年度よりも評価が向上している。 ・親子読書の推進に取り組んでいる。週1回親子で絵本貸出しをしている。	・幼小連携については、教職員間で話し合いから学び合うことができた。 ・子育て支援の取組では、2歳児対象の教育相談の取組について検討する。 ・情報発信では、降園時間にばらつきがあるが今後も保護者とのコミュニケーションを大事に取り組んでいく。 ・親子読書については、親子での時間が大切なことを伝えていきたい。	・親子読書では、保護者の中から時間をとるのが難しいという意見がでていた。それならばどんなことができるのかを考えていく。	・おやじの会などの取り組みを生かし、さらなる活用を呼び掛けていく。